

中国自動車産業についての経路依存性分析

矯 云 華

改革・開放政策を実施した後、中国経済は飛躍的に発展を遂げてきた。特に、90年代末からインフレ率を5%以下に抑えつつ、8%超の高度経済成長を続け、世界経済を牽引する存在となった。そして、国民所得の上昇、大規模な社会インフラ整備は、国内自動車需要を喚起し、中国の自動車市場は徐々に巨大化、細分化になっている。この巨大市場が注目をひきつけ、大手外資完成車メーカーや部品メーカーが次々と進出をしている。一方、国内にも参入規制の撤廃により、新規参入が増えており、特に注目を浴びているのは民族系乗用車メーカーである。奇瑞や吉利などこれら民族メーカーの成長を支えている寄せ集めの生産・開発システムに対して様々な評価がなされている。けれども、中国自動車産業の歴史を振り返ってみると、昔から商用車業界において、同じような寄せ集めの生産・開発システムを取ってきたことに気づいた。そこで、私は中国自動車産業、特に商用車業界におけるこのような寄せ集めの生産・開発システムがどのように形成され、進化してきたのかに関心を持つようになった。

また、近年の中国自動車産業の急ピッチな成長に伴い、成長の背景にあるいろいろな要素、及び中国自動車産業の将来性に関する研究も数多く行われている。しかし、藤本・新宅（2005）、丸川（2007）、丸川・高山（2005）等々、研究の中心を中国の乗用車産業においたものが殆どである。商用車を研究対象にしているのは、山岡（1996）などの数人に限られる。筆者は数少ない商用車の研究に一筆を添えようと、商用車を研究対象に選んだ。中国自動車産業の歴史をよく見てみれば、中国自動車産業がスタートした後、中国の社会主義体制の計画経済で、企業は生産の機能しか行わなかった。そして、製品開発は唯一の研究開発機関である長春汽車研究所が担当していた。しかも、ソ連との関係悪化後、中国自動車産業は技術導入の道が完全に断たれ、発展の途を自力で探ることにさせられた。そのような歴史的拘束条件の中で、寄せ集めの生産・開発システムが徐々に形成された。このように今日注目されている寄せ集めの生産・開発システムは歴史的な背景をもっており、いわゆる経済システムの「経路依存性」の典型的な事例である。そこで、本論では、経済システムが歴史的、経済的、社会的、技術的条件に依存する「経路依存性」を使って、中国自動車産業に存在する寄せ集めの生産・開発システムの形成を分析することにした。

また50年もの歴史的経験にもとづいて、中国商用車産業は、ある程度の自主開発能力を持っている。世界の中大型商用車の販売実績ランキングで、2005年に、二大メーカーの第一汽車と東風汽車が既に中・大型トラックの販売実績世界トップ5に入っている。これは、二大メーカーが商用車の分野では世界的なメーカーとなっていることを示す有力な証明である。そして、なぜ自主開発能力が重視されるのであろうか。自主開発は企業が様々な試行錯誤により、蓄積してきた大切な組織能力であり、企業が生き残っていく上での大事なものである。ここでは第一汽車商用車部門を中心に考察を進める。というのは、第一汽車商用車部門は、①中国自動車産業の最初のメーカーであり、②今でも商用車業界において重要な存在にあり、③歴史で築き上げた生産・開発システムが今でも中国自動車産業に大きな影響を持っているからである。論文では中国自動車産業、特に商用車の歴史を整理し、このような中国式寄せ集めの生産・開発システムがいかに形成、進化してきたのか、そしてどうやって中国自動車業界全体

に影響しているのかを検討してみたい。

論文の構成は以下のようになっている。まず第1章では、中国自動車産業の歴史を全体的に把握しようということで、1956年、中国自動車産業がスタートしてから、改革開放後までの自動車産業の歴史を簡単にまとめた。そして、第2章において、第1節に中国自動車産業ではじめての自動車メーカーであり、大手メーカーである第一汽車の変遷を展開し、寄せ集めの生産・開発システムの形成要素を検討した。それを通して、中国自動車産業が直面する政治、技術、経済条件を明らかにした。第2節に、技術に重点を置き、当時中国唯一の自動車研究開発機関である長春汽車研究所の技術的蓄積の過程を述べた。そして、第3章では、寄せ集めの生産・開発システムがどうやって中国自動車産業全体影響を与えているかを検討するため、長春汽車研究所の研究開発機関としての唯一の存在、及び社会主義計画時代の研究機関の役割を分析した。そして、改革開放後、長春汽車研究所で養成された人材の流出の事例を通し、第一汽車でできている技術だけでなく、生産開発システムまで中国の他企業に影響するようになった。

論文では歴史の視点から、中国自動車産業の寄せ集めの生産開発システムの形成及び影響を分析していた。しかし、現実で環境や安全に関する技術が日々に進歩しており、世界自動車業界の各企業間の提携関係も大きく動いている。このような競争が激しい環境で、中国自動車産業に存在する寄せ集めの生産・開発システムの変容を検討することも必要であろうそこで、参考とするため、補章で世界中大型商用車メーカーの概況を簡単にまとめておいた。